

● ため池決壊に注意!

ため池が、決壊する大きな原因に、**大雨**と**地震**があります。

まれに、**融雪水**の急激な水位上昇や**老朽化**による決壊の被災も報告されています。

● ため池決壊の主な原因 大雨や大地震のあとは要注意!

大雨

ため池の洪水吐(許容量を超えた貯水を放水する施設)の能力には限界があり、ゲリラ豪雨などの局地的な大雨が長く続いた場合、ため池の水位が上昇し、堤防を乗り越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊につながる危険性があります。

大きな地震が発生すると、堤防で亀裂や地すべりが発生したり、地盤の液状化現象が起きるなど、堤防決壊の危険性が高くなります。

地震 発生直後

雪(融雪水)

ため池の急激な水位上昇は、多量の融雪による洪水によって発生する場合があります。雪解けの時期にはため池への流入水と水位上昇への注意が必要になります。

老朽化したため池は、ある日突然崩壊することがあります。ただし、崩壊の予兆として変形や漏水が起こるものと考えられるので、日常的な管理でこのような予兆を見逃さないことが重要になります。

老朽化

● ため池が決壊する前に避難!

情報収集・確認

- ラジオ、テレビ、インターネットなどから正確な気象情報を確認する。(緊急地震速報、台風情報など)
- 町が発表する**避難情報**に注意する。

避難準備

- ため池の浸水被害の範囲を確認する。
- 避難場所、安全な道路を確認する。
- 非常持ち出し品を常備する。
- 身の危険を感じたら早めに避難する。

ため池決壊の恐れあり!

避難

- **避難勧告・避難指示(緊急)**が発表されたらすぐに避難する。
- 動きやすい服装で、徒歩で避難する(状況に応じて車での避難もあり)。

▼ 避難情報の詳細はこちらの項目を参考

● **避難情報について**

● **避難時の心得**

状況を把握し、適切な行動を心がけましょう!!

● 家屋の浸水・浸水深の目安

洪水によって市街地や家屋、畑が水に覆われることを浸水といい、その深さを浸水深といいます。

一般家屋では3m以上で2階も浸水するおそれがあるため、あらかじめハザードマップで自宅がどの程度浸水するのか確認してみましょう。

逃げ遅れた場合、近くの建物の2階以上、浸水や土砂が流れこむおそれのない高い建物など、少しでも安全な場所に避難するようにしましょう。

